

# ごあいさつ



平素はJAひがしみの事業運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、わが国の経済は、輸出や生産活動が持ち直し企業収益が高水準となる中で、雇用環境の改善と雇用者所得の向上とともに個人消費の緩やかな回復も見られましたが、実態経済との乖離かいりも感じられる動向でした。

農業を取り巻く環境につきましては、農業従事者の高齢化や担い手・後継者不足等による農業従事者の減少、耕作放棄地の増加等も進み、依然として厳しい環境におかれています。

JAをめぐる情勢は、改正農協法が施行され4年目を迎えましたが、政府が進める「農協改革」は、JAの自己改革の集中推進期間を本年5月までとし、その実施状況を調査・検討した後に将来のJAの方向性について、令和3年3月までに結論を得るとしてしています。これに対してJAグループでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」「組合員の組合員による、組合員のための組織」という原点に立ち返り、農業者の所得増大や地域の活性化へ貢献することでJAとしての存在意義の発揮を目指しております。当組合では、第6次中期計画の最終年度として計画の実践に全力で取り組んでまいりました。その結果、一定の成果を収めることができましたが、今後も取り組まなければならない課題は山積しております。

このような状況の下、第30回岐阜県JA大会では、基本方針を「協同の力で農業と地域を未来につなぐ」とし、「農業者の所得増大の実現」「協同による地域の活性化への貢献」「総合事業機能発揮のための経営基盤強化」を目指す姿として、今後3年間取り組むことが決議されました。

当組合としましても、第7次中期計画を策定し、「農業者の所得増大と農業生産の拡大」を最重要課題として、総合事業機能発揮のための経営基盤強化を図るとともに、地域農業の振興と地域の活性化に貢献する活動を行い、地域の皆さまに信頼され、必要とされるJAを目標に、全役職員が一丸となり全力で取り組んでまいります。

ここに「2019年版ディスクロージャー誌」を発行させていただきますので、ご一読いただきJAひがしみのへのご理解をさらに深めていただき、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年7月

東美濃農業協同組合

代表理事組合長 足立 能夫